

機器分析評価センターの一年を振り返って

専任教員 谷村 誠

機器分析評価センター（以下、センターと記します）に着任して2年目になりました。昨年度は1年間の流れが全く分からず、追われるまま、言われるままにやってきましたが、お陰様で今年度はだいぶ慣れてきたように思います。慣れてくると周囲を見渡す余裕も出てきますので、機器分析評価センターの課題も段々と見えてくるようになりました。そこで今年度は、昨年度に「言われるまま」実施したセンター改革内容の定着を目指しました。機器分析評価センターの基本ミッションは「学内で需要が多い機器を設置し、安全を担保して公開する」ことですが、そのためのキーワードは**設置機器の流動化と環境安全体制の構築**です。以下ではそれぞれの活動について簡単に振り返ります。

今年度では、概算要求の補正予算によって導入した単結晶用および粉末用X線回折装置2台を6月から公開することが出来ました。着任初年度の概算要求申請が通るという全くあり得ない幸運と、立ち上げ時の松本真哉先生や山口佳隆先生の御尽力の賜物でした（両先生には厚く御礼を申し上げます）。もう一つ、個人研究室にて役割を終えた原子間力顕微鏡をセンターへ移設しました。暫く使用していなかった機器であったために立ち上げには苦勞をしましたが、2月から無事に公開することが出来ました。このような学内機器のリユースは、限られたリソースの中でセンターのミッションを果たすためには重要な方法論となります。今後もリユース機器の導入を積極的に行い、機器の流動化を促進して行きたいと考えていますので、移設可能な機器の情報をセンターへお寄せ下さい。

センターでは今年度より新たに労働安全衛生連絡会を設置しました。ご存知の通り、機器分析を行うためには高圧ガスを使用する機会、分析の前処理として化学薬品を扱う機会は多々あります。またRI施設において放射線を扱う機会もあります。このような際には学生や教職員の安全担保は最重要事項となりますが、そのための課題も散見されます。そこで今年度では本連絡会を中心として高圧ガス保安法や労働安全衛生法（特定化学物質や有機溶剤等）、さらには放射線障害の防止に関する法律に基づいた対応を進めてきました。このような活動は非常に時間が掛かるものではありますが、今後も安全を担保するための環境作りを積極的に行っていきます。センター内で実験を行っている際に危険を感じる場面がございましたら、センター教職員まで遠慮なくお申し付け下さい。

このような活動に加え、地域連携活動にも力を入れました。特に「かながわ産学公連携推進協議会（CUP-K）」との協力関係に基づき、神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）様と協働で外部依頼分析を始めたことは、センターにとっての大きな進展と言えます。本報では KISTEC の伊東圭昌様にお願ひし、CUP-K の活動紹介についてのご寄稿を頂きました。ここに厚く御礼を申し上げます。

お陰様で、この1年で様々な改革を行うことが出来ました。次年度も「センターの存在感を高め、ミッション履行する」を目指して走って行きたいと考えております。皆様の御指導や御支援を賜りたく、お願ひを申し上げます。